

第5学年 社会科 学習指導案

【本時の主張】

本時は、情報ネットワークの有効性を一面的に捉えている児童が、東日本大震災時に情報ネットワークが有効に活用されたかについて、情報ネットワークのメリット・デメリットを比較し、その有効性について検討することによって、情報ネットワークの問題点に気づき、情報を有効に活用するための改善策について考える授業である。

1 単元名 「くらしを支える情報」

2 単元の目標

情報産業や情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりについて、災害時におけるマスメディアと情報ネットワークを通して調べ、情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えることができる。

3 単元の評価規準

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	知識・理解
情報産業や情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりについて進んで調べ、様々な情報に対して望ましい行動をしようとする。	情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考え、表現している。	情報の役割について統計資料や文書資料から読み取り、情報の有効な活用について調べたことや考えたことを表現している。	災害時の情報ネットワークの働きを手掛かりに、情報産業や情報化した社会の様子と国民生活とのかかわりについて理解している。

4 単元と児童

(1) 児童の実態

本単元の学習対象である情報について、普段から意識して情報を取得し生活している児童は少ない。情報の取得手段としては、テレビが多くインターネットに関しては少ない。また、携帯電話を所持している児童も少なく、情報ネットワークを活用しているとはいえない状況である。学習において、インターネットを活用して調べ活動を行ったが、うまく検索することができない児童が多く見られた。しかし、保護者はそれぞれ精通している方が多く、間接的に情報ネットワークを活用していると言える。

社会科の授業では、これまで資料を活用して思考・判断・表現する学習を多く取り入れて指導してきた。絵図を中心に取り扱い、気付いたことや分からないこと等を記述できるようになってきている。「沖縄の人たちの暮らし」の単元では、菊の栽培の写真から白熱電球に気づき、電照菊栽培について考えることができた。また、「高地の人たちの暮らし」では、野辺山原の開拓の様子写真から開拓の様子を読み取り、人々の願いに結び付けて考えることができた。しかし、グラフや表等の数値を伴う資料を読み取る場合、つまづいてしまう児童が多い。数値を読み取ることで精一杯で、そこから学習内容に関係付けて考えることを苦手としている児童が多い。「稲作に励む人々」では、10a当たりの米の生産量のグラフから、各年度の数値を読むことはできたが、それが同面積のものであることや、約2倍に増加してい

るといふ変化の大きさに気付くことができた児童は少ない。稲作の労働時間や機械化による費用の変化にかかわるグラフについても、数値の増減は読み取れるが、課題と結び付けたり、具体的にどのような変化であるかを読み取るまでにはいかない児童が半数近くいる。

授業や単元の終末に学習のまとめの記述を行ってきた。授業内容を踏まえて、キーワードを選択してまとめたり、書き出しをそろえてまとめたりと繰り返し行ってきたことで、4月当初に比べ、学びを記述できる児童が増えている。しかし、授業内容のまとめに留まり、自分の考えを入れて書くことができる児童は少ない。

学び合いの活動に関しては、全体・グループ・ペアの形態にかかわらず、単発的な発言が多く、対教師の図式となってしまう、児童相互に考えを交流しているとは言い難い。根拠が不明確な発言も多く、議論がかみ合わない場面も見られる。原因としては、課題設定が適切でなかったこと、同じ条件でない状況になってしまったこと、児童の考えが一方に偏ってしまったことなどが挙げられる。また、上述の通り、その前提としての自分の考えを明確にもつことができていないことも挙げられる。

(2) 単元について

本単元は、『小学校学習指導要領解説・社会編』p.66・p.67 第5学年の内容(4)のア及びイを受けて設定した。

内容(4)

我が国の情報産業や情報化した社会の様子について、次のことを調査したり資料を活用したりして調べ、情報化の進展は国民の生活に大きな影響を及ぼしていることや情報の有効な活用が大切であることを考えるようにする。

ア 放送、新聞などの産業と国民生活とのかかわり

イ 情報化した社会の様子と国民生活とのかかわり

アに関しては、放送や新聞などのマスメディアによる一方向型の情報発信を取り上げ、放送や新聞などの産業が意図をもって多種多様な情報を収集し、選択・加工して提供していることを学び、それを通して情報の送り手が担うべき役割や責任、受け手の側に求められる適切な判断や責任などについて考えさせることである。

イに関しては、情報を受信・発信する双方向型の情報ネットワークを取り上げ、その利便性やそれを有効に活用するための知恵を学び、情報ネットワークのもつ可能性や課題、情報の有効な活用の仕方に目を向けていく。そして、情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることや、情報の有効な活用が大切であることを考えさせる。ここでの情報ネットワークとは、インターネットととらえる。

実際、現代の高度情報化社会の中で生活する児童の周りには情報が氾濫している。情報を得る手段も多種多様化しており、児童は様々な情報を様々な手段で獲得している。また、それらの情報は児童にとっても欠かすことのできない大切なものである。それゆえに情報のもつ働きや機能、情報とのかかわり方を学ぶ必要がある。

そこで、本単元では、具体的な学習対象として、「東日本大震災時のマスメディアと情報ネットワーク」を取り上げる。平成23年3月11日三陸沖を震源に国内観測史上最大のマグニチュード9の地震が発生した。津波や火災等によって、広範囲で甚大な被害が起きた。また、この震災に伴い、福島第一原発、第二原発にて相次いで原発事故が起き、周辺住民には避難指示や屋内退避命令が出される等、今尚、事態の収束が見えない状況である。この震災が日本にもたらした社会的影響は大変大きなものであり、児童にとっても少なからず影響を受けている。この「東日本大震災」を具体的な学習対象として取り扱う意義は三つあると考える。

一つ目は、マスメディアによる震災報道を通して、「意図をもって多種多様な情報を収集し、選択・加工して提供していること」を理解することができるからである。新聞各紙による論調の違いや情報として伝えられるまでのタイムラグ等、具体的にとらえることができるからである。

二つ目は、情報ネットワークを有効に活用している公共サービスの向上に努めている教育、福祉、医

療，防災の中から選択することを受けて，防災にあたると考えられるからである。実際，東日本大震災では，それまでの災害と比べて，緊急地震速報や震災後の安否確認，生活情報等で，個人が情報ネットワークを多く活用している点に特徴がある。TwitterやFacebookをはじめとしたソーシャルメディア等の情報ネットワークを活用した双方向の情報交換が多く行われ，その後利用者が急増している。NHKは，googleと提携し安否情報を得られるようにしている。またポータルサイトの活用や携帯会社の災害伝言板，緊急地震速報等，様々な情報ネットワークが活用されていたという事実がある。このような双方向の情報のやり取りを，実際に保護者等が行っているのを身近に見聞きしていたり，ニュースで知っていたり，身近な教職員がそれらを活用していたりと，児童は具体的に情報ネットワークを捉えることができると考える。

三つ目は，この震災では，情報ネットワークのメリット・デメリットの双方が浮き彫りになったからである。上述のようなメリットに対し，流言がネットに流布し，それらがチェーンメールによって一気に広がった。このような不確実な情報は社会を混乱させる。これらを通して，情報を批判的に受容し，分類・整理し，効果的に活用する態度を養うことができると考える。

以上のようなことから，震災時においてマスメディアが行った報道と情報ネットワークを取り扱うことで，情報化の進展が国民生活に大きな影響を及ぼしていることや，情報の有効な活用が大切であることを考えることができると考える。

5 指導の構想

(1) 児童にとって身近なゲストティーチャーや身近な情報機器を提示し，震災と情報ネットワークが身近なものであると捉えさせ，学習への興味・関心を高める。

震災時に被災者やその家族・知人は，どのように情報ネットワークを活用したのか，家族が被災した職員をゲストティーチャーとし，聞き取り調査を行う。内容が災害に流れないように情報ネットワークの活用焦点を絞る等，調べる観点や質問事項を事前に決めて，聞き取り調査をする。必要なことを記録させる。児童は，身近な人から情報ネットワークを活用した具体的な姿を調べることで，情報ネットワークを身近にとらえることができる。

(2) 資料からマスメディアや情報ネットワークのメリット・デメリットを捉えさせ，根拠を明確にして，情報の有効な活用について話し合わせる。

マスメディアについては，報道の比較を行い，それぞれのメディアが収集した情報を意図的に選択・加工していることに気付かせる。意図的に選択・加工することのメリット・デメリットについて話し合わせる。それを基に，情報を受け取る側に求められる判断と責任について話し合わせる。話し合いに際しては，メリット・デメリットを提示し，自分の考えの根拠とさせる。

情報ネットワークについては，有効に活用された事例と信ぴょう性にかける情報の流布の事例の二つを取り扱う。それぞれの事例を資料から読み取り，情報ネットワークのメリットとデメリットを分類・整理し，それらを根拠として「情報ネットワークをどのように有効活用していくべきか」について話し合わせる。整理することによって児童は自分の考えの判断材料とすることができる。また，共通の具体的な資料から考えることによって，理由に具体性をもたせることができ，話し合いが焦点化されると考える。

6 単元の指導計画（全15時間）

次	時	学習のねらい（○）と主な活動（・）	評 価				
			関	考	技	知	評価規準
1	1	○ 身の回りに溢れる情報とその取得手段に興味・関心をもつ。	○				情報取得手段について興味・関心をもち，ど

		<ul style="list-style-type: none"> 生活の中で何から情報を得ているか話し合う。 				<p>の手段が多いか考えようとしている。</p>
2		<ul style="list-style-type: none"> ○ テレビのニュースがどのように作られているのか調べ、まとめることができる。 ・教科書や資料集を使って調べる。 ・ノートにまとめる。 				<ul style="list-style-type: none"> ○ ニュース番組の制作について理解することができる。
3		<ul style="list-style-type: none"> ○ マスメディアが情報を意図的に選択加工していることが分かる。 ・複数の震災関連の新聞記事を比較する。 ・選択加工にはそれぞれの意図が入っていることを考える。 			○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ マスメディアが情報を意図的に選択・加工していることを理解する。
4		<ul style="list-style-type: none"> ○ マスメディアの生活への影響を考え発信する側と受け取る側の責任について考える。 ・メリット・デメリットを整理する。 ・効果的な活用について話し合う。 			○	<p>受け取る側の判断と責任について考え、マスメディアに対する自分の態度を考える。</p>
5		<ul style="list-style-type: none"> ○ マスメディアだけでは、個々が必要としている情報が得られないことに気付く。 ・東日本大震災のときどんな情報が知りたかったか考える。 ・マスメディアの報道内容を検討する。 			○	<p>マスメディアだけでは、個々が必要としている情報が得られないことに気付く。</p>
6		<ul style="list-style-type: none"> ○ 東日本大震災の時、被災者やその家族はどのように情報を得ていたか予想を立てることができる。 ・当時の状況を整理する。 ・情報獲得手段について、予想を立てる。 ・質問内容について考える。 			○	<p>情報をどのように得ていたか予想を立て、検証のための質問を考えることができる。</p>
2	7	<ul style="list-style-type: none"> ○ 震災時には、情報ネットワークが活用されていたことを理解する。 ・ゲストティーチャーに話を聞き、予想について検証する。 			○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ 東日本大震災では、情報ネットワークが活用されていたことを理解する。
	8	<ul style="list-style-type: none"> ○ 情報ネットワークのメリットについて考える。 ・震災時の情報活用について整理する。 ・各自治体や公的機関の状況を知る。 ・情報ネットワークのメリットを考える。 			○ ○	<ul style="list-style-type: none"> ○ ○ 情報ネットワーク活用のメリットについて考えることができる。

	9	○ 情報ネットワークのデメリットについてその現状から考える。 ・震災時の役立った情報源と携帯基地局の停局数推移，年代別活用グラフからデメリットについて考える。 ・東日本大震災時のネット上の流言の事例を資料から捉える。		○	○	情報ネットワーク活用のデメリットについて考えることができる。	
	10	○ 震災時に情報ネットワークが有効であったかについて，メリット・デメリットから考える。 ・既習事項を整理し，メリット・デメリットを比較し，資料を基に自分の考えをまとめる。		○		根拠を明確に，災害時に情報ネットワークが有効に活用されていたか自分の考えを記述する。	
	11 本時	○ 情報ネットワークをどのように有効活用していくべきか考える。 ・メリット・デメリットを基に，情報ネットワークの有効活用について話し合う。		○		情報ネットワークをどのように有効活用していくべきか考えることができる。	
	12	○ インターネットの仕組みや活用方法について理解する。 ・教科書や資料集を基に，仕組みを調べる。			○	○	インターネットの仕組みや活用方法を理解する。
3	13 14 15	○ 情報の有効な活用について，新聞にまとめる。 ・単元で学んだことと考えたことを新聞にまとめる。		○	○	○	情報の有効な活用について，新聞にまとめることができる。

7 本時の学習（全15時間，本時11時間目）

(1) 本時のねらい

東日本大震災時に情報ネットワークが有効に活用されていたかを検討することを通して，情報ネットワークの有効な活用方法について考えることができる。

(2) 本時の構想

前々時までにおいて児童は，東日本大震災時における情報ネットワークのメリット・デメリットについて学習している。メリットについては4点，①プル型情報配信，②当事者（官公庁・自治体・専門家・被災者等）自らの情報発信，③有益な情報のフィルター機能，④利用者によるコラボレーションが挙げられる。デメリットについても，①インフラの整備（回線，電源），②流言情報の伝播，③一斉伝達に向かない，④普及率が低い点の4点が挙げられる。これらをもとに前時においては，東日本大震災時に情報ネットワークが有効に活用されていたかについて，メリット・デメリットのそれぞれの根拠と考えられる資料をもとに自分の考えをまとめている。

本時では，まず，前時までにとまとめた，それぞれの考えを発表し，「東日本大震災時に情報ネットワー

クは有効に活用されたか」について検討する。上述のメリット・デメリットを用いて、有効であったか否かについて話し合いを行う。有効に活用された事例から肯定的に捉える児童と、有効に活用されなかった事例から否定的にとらえる児童の話し合いになる。この話し合いで、有効であったか否か共通の見解を出すことは難しく、結論にたどりつかない。しかし検討を通して、肯定的にとらえている児童の中には有効に活用するためには条件が必要であることを理解する児童や、否定的に捉えている児童の中にもその有効性について認める児童が生じる。また、災害時には情報ネットワークを有効に活用する必要があることについては共通認識が得られるであろう。ここでは、有効性があるのに、有効に働かなかった要因・問題点に目を向けさせ、有効に活用するにはどのような改善策が必要かについて意識を向けさせる。

そこで、今回の震災の事例を通して「情報ネットワークを有効に活用していくためには、どうすればよいだろう。」という課題について、先ほどの検討を基に班で話し合いを行う。メリットを生かすために、デメリットをどのように解消していくかを焦点とする話し合いが展開される。数名に発表してもらい、その後本日のまとめとして、ノートに「情報ネットワークを有効に活用していくためには、どうすればよいだろう。」についての自分の考えを記述する。ここで話し合った内容については、第3次の「情報の有効な活用新聞」作りの参考とし、第3次でさらに自分の考えとしてまとめていく。

① 資料提示について

前半の話し合いでは、これまで学習したメリット・デメリット、その根拠となった資料が使用される。そこで、メリット・デメリットを整理した表を全体に提示する。また、それらの根拠となった資料等、提示できるよう準備しておき、検討の中心となっている資料については、全体に提示する。

② 話し合いについて

全体での話し合いの場と班での話し合いの場の二つを設定する。全体では、「東日本大震災時に情報ネットワークは有効に活用されたか」について検討する。有効であったと肯定的に捉える立場と否定的に捉える立場の二つに大別される。それらを検討させるため、前時の記述をもとに意図的に指名する。また、話し合いを焦点化するため、それぞれの根拠となりうる事例や資料を再提示する。また、出された考えと根拠を板書で整理し、話し合いの流れを視覚的にとらえさせる。

班での話し合いでは、班に「資料の読み取りができる児童」「進行ができる児童」を意図的に配置し、班相互の格差ができないよう配慮する。「情報ネットワークを有効に活用していくためには、どうすればよいだろう。」という課題について話し合い、有効に活用するための改善策について考える。その際、問題点と改善策という考える二つの視点を与える。

③ 表現方法について

本時の最後に「情報ネットワークを有効に活用していくためには、どうすればよいだろう。」に対する自分の考えを、ノートに記述させる。その際、話し合いで出された有効に活用されなかった問題点と改善策を参考にするよう指示する。また、友達の実見も取り入れていくよう指示し、自分の考えを強化できるようにする。書き出しを「情報ネットワークを有効に活用していくための方法は、〇点あります。一つ目は、～。」にそろえる。有効活用の方法の数を考えてまとめることで、話し合いを整理し、再構成させていく。

(3) 本時の展開

学習内容・活動	主な教師の働き掛けと児童の反応	指導上の留意点と評価

○ 有効性について全体で話し合う。

(20分)

東日本大震災時に情報ネットワークは有効に活用されたのでしょうか。

- ・有効に活用されたと思います。なぜなら、実際に連絡のつかない人の安否が判明したり、避難に必要な情報を得たりすることができたからです。
- ・有効に活用されたと思います。テレビでは分からない自分が必要な情報を得たり、自分からも情報を発信することができたからです。
- ・有効に活用されなかったと思います。なぜなら、利用者の資料からも分かる通り一部の人がしか使えていなかったというデメリットがあるからです。
- ・有効でなかったと思います。なぜなら、電気が使えなかったし、電波も届いていないから、情報を引き出せない人が多くいたからです。
- ・有効では無かったと思います。なぜなら、流言情報が流されて、困った人がでたり、混乱させたからです。
- ・流言にだまされた人や流す人が悪いと思います。情報ネットワーク自体は有効だと思いますが。
- ・でも、実際に役に立っている人が多かったり、その後も情報ネットワークを使う人が増えているから有効だったのではないですか。
- ・それは一部の人のだし、使えなかった人が多かった事実もあります。一部の人のみじゃだめで、有効とは言えないと思います。一部のみに限られていることが問題だと思います。
- ・使う事ができたら有効だけど、今のままじゃとても有効は言えないと思います。でも、情報ネットワークは必要だと思います。

○前時までの内容（メリット・デメリット）を掲示し、内容を想起させる。

○ 座席表を活用し、意図的に肯定側・否定側を指名していく。

○ 根拠となる資料を再提示する。

○ 発言を板書で整理していく。

○ 話し合いが焦点化するよう、同様の根拠で見方の違う児童を意図的に指名する。

○ 有効性がある点、有効活用されない問題点へと視点を移させる。

○有効に活用するための改善策を班で話し合う。

(13分)

では、情報ネットワークを有効に活用していくためには、どうすればよいのでしょうか。班で話し合しましょう。

- ・問題点は、どこだろう？デメリットを解決すればいいのかな。
- ・電波が繋がらないのは、どうすればいいのかな。
- ・携帯基地局停局推移ってグラフがあったよ。基地局が壊れたり、電波を止めたりしていたよ。
- ・電波が安定供給されればいいよね。そのためには、壊れないようにしなきゃね。
- ・電気もないとつなげられないよ。電気を確保する方法はないかな。
- ・なんで、インターネットの流言にだまされる人が多いのかな。
- ・情報をそのまま信じているからかな。
- ・情報を確認してから、人に教えたりすればいいんじゃないか。
- ・なぜ、お年よりは携帯端末を使わないのだろう。使い方が難しいのかな。
- ・スマートフォンを買わない理由には、高いからや使いこなせない

○ 問題点と解決策を考えると、発表の際も両面に触れることを指示する。

○ これまでに使った資料を活用するように指示する。

○ 話し合いが進まない班には、論点をはっきりさせたり、参考になる資料（これまでの学習で使用したもの）を提示したり、円滑に進むよう支

	<p>という理由があった。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・もっと簡単に、お年寄りに身近な携帯端末になればいいね。らくらくフォンみたいに。 ・多くの人にもっと広める工夫が必要だね。ツイッターも利用者は全体では少ないし。 	<p>援する。</p>
<p>○ 改善策について発表する。(7分)</p>	<div data-bbox="336 383 1171 555" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>では、情報ネットワークを有効に活用していくためには、どうすればよいでしょうか。発表してもらいます。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・電波がつかないことが問題だから、地震や津波に強い基地局を作ればよい。 ・流言にだまされる人がいるから、面白がって流言を流す人がいると思う。だから、流言にだまされないように、インターネットの使い方勉強した方がいい。 ・スマートフォン等の携帯端末を使える人が少ないことが問題。お年寄りでも簡単に使えるようにすることが必要。 ・ソーシャルメディアの利用者数が少ない問題は、もっと使いやすいようにしたり、お年よりは地域のサイトに加入しやすいので、地域のソーシャルメディアを作ったり、他と連携させたりして改善していけばいい。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 一つの班に発言が偏らないよう、すべての班に発言機会を設ける。 ○ 問題点を網羅できるように机間指導を生かし、意図的に発言させる。 ○ 発言を関連付けられるよう、同様な発言を続けて出させる。
<p>○ まとめ(5分)</p>	<div data-bbox="336 1111 1171 1323" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>情報ネットワークを有効に活用していくためには、どうすればよいでしょうか。今日の学習をふまえてノートに自分の考えをまとめましょう。友達の考えで参考になったことは取り入れていきましょう。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・情報ネットワークを有効に活用していくための方法は、三点あります。一つ目は、電波が通じるように地震や停電に強い基地局を作ることです。二つ目は、もっと多くの人に携帯端末でインターネットができるようにすることです。簡単な操作方法のものを作ったり、参加しやすいソーシャルメディアを作ったりと身近なものにする必要があります。三つ目は、インターネットの使い方を正しく理解することです。流言にだまされないようにするためにインターネットの情報はすぐ信じないで信頼できるサイトで確認することや、自分の発信する情報にも責任をもつことが大切です。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 書き出しをそろえるよう指示する。 ○ 板書を基に、ノートに記述させる。 <div data-bbox="1225 1368 1449 1877" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>【評価】 資料や話合いから分かったことを基に、有効活用について自分の考えを複数の観点から記述している。</p> <p>【評価方法】 ノート記述</p> </div>